

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた〕「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」

-ヨハネ 15章-

聖霊を願う人に

「聖霊」が私たちの内におられるとき、心は「自分」から出て「愛」に向かいます。

かつて人類は自分の家族・共同体以外は敵であり、安心立命のためには敵を滅ぼすことが必須でした。天の御父が、御子を世に遣わされたのは、人類のそんな生き方を改め、平和な世界をもたらすためでしたが、人類はその神を殺して自分たちの生き方を踏襲し、以後二千年を経ても、いまだこの思想は人類の根底で生き続けているのです。それは、真理に道を譲らず、かたくなに我が欲望に邁進しようとする人間本性の姿です。

自分が何によって存在し、今、在るのかを意識しないで生きるならば、人間は自分を宇宙の中心に置いて「自己保身と自己中心性」の本性のまま、競争と戦争による「滅亡の世界」に向かうしかありません。地球は今、まさにその危機に瀕しているのです！



私たちは「存在している」のではなく「存在させられている」のであり、どんなにあがいても、もう間もなくこの世から去らねばならないのです。そうであれば、存在させたお方の御前で「裸であり、人はみんな等しく貧しい兄弟であって敵ではない」ことを悟り、平和のために兄弟としての生き方を今、身に着けるべきなのです。皮肉にも、コロナウイルスが人類の暴走にストッパーの一役を果している、このときに！

「道であり、命であり、真理である」キリストは、天の父が望んでおられる生き方を私たちに示すために、私たちの「友」として来られました。そして地上で私たちが一番大切にしている命を、友のために捨てて「愛」を残して逝かれたのです。

これ以上の大きな愛はないといわれる「友のために命を捨てる」イエスの愛が聖霊によって私の腑に落ちたなら、私は二度と神を裏切ることが出来ない人になるでしょう。

煉獄に行くのではなく、この世に生きている間に、この愛を悟ることが出来る「聖霊」を願う人になりましょう。愛の人となって、御父を喜ばせる人になるために。